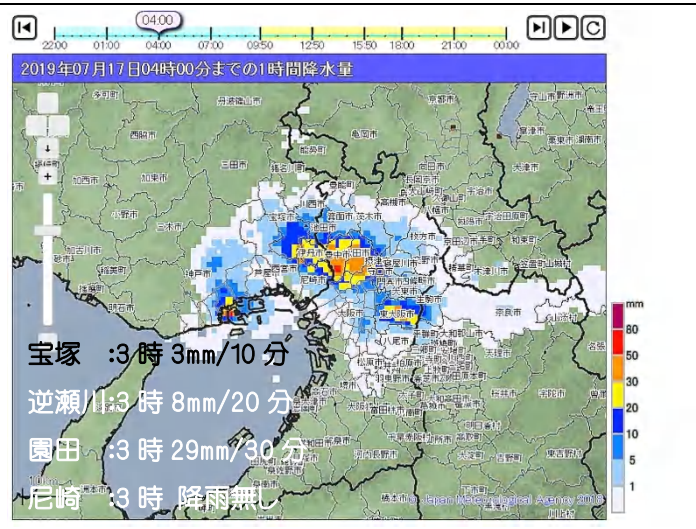




堤防・高水敷の伐木・剪定など樹木管理が進んでいる。



梅雨時期の武庫川流域スポット的な降雨が目立った。



7月24日

攪乱のを越すような降雨は無く砂州が育ち川の中に森出現



7/24日

魚の住処が埋まった仁川合流点



7月21日

百間樋下流帯工で川幅を測るような作業が行われていた。



7月21日

武庫川新橋から見た帯工付近 左岸側に偏る流れ。

心配していた梅雨時期の洪水も梅雨明け宣言がだされ被害をもたらすような豪雨も無く無事に梅雨時期を乗り越えることが出来た。仁川潜水橋下流側に出来た砂州には土砂堆積に最適な流量だったようで、砂州の成長が見られ、樹木を押し流すような洪水もなかったことから順調に育ち川の中に大きな森が出来た。綺麗な砂で埋まった雨上がりの河原や浅瀬は格好の遊び場になり、小さな網を片手に魚採りする子供姿が見られ、葎原からヨシキリの鳴き声が聞こえ、バッタが飛び跳ねる。砂で浅くなった水制工付近に繁茂しているミズヒマワリにアサギマダラが飛び交いだした。厄介なミズヒマワリが適度の洪水で押し流されることを期待していたが、適度の砂が供給されミズヒマワリの繁茂領域が拡大して、もう人手で駆除出来るような状況でなくなってしまった。

百間樋堰下流の帯工で大勢の人が、川幅を測るような作業を行っていた。帯工の左岸側が低くなり、この付近では流れが左岸側に偏っている。帯工の右岸側は百間樋取水の余水吐け口少し上流側に当たり、この付近から寄州が発達し武庫川に直角に流れ込む百間樋余水が寄州の上を川のように流れ、川の中に川が出来たような形になっている。余水吐け口付近で竿出す人の姿が見られ、魚が棲める環境が整っていたように見える。